

ctc201106

VM07C : VMware vSphere: Install , Configure , Manage [V41]
(試験バウチャー付)
通常価格 ¥357,000 -> 特別価格 ¥294,000
開催日程 : 8/8-12、8/15-19、8/29-9/2、9/5-9、9/26-30
<http://www.school.ctc-g.co.jp/vmware/VM07C.html>

しかもVM07Cコースを受講すると、効率的かつ強力的にVCP資格取得をサポートする
下記1日コースを、無償で受講できます！！
<http://www.school.ctc-g.co.jp/vmware/VM81.html>

VCP4を取得するチャンスです。
是非この機会にご検討下さい。

トピックス

VMware認定資格 VCAP 受験体験記！！

VMwareの認定資格では、VCP4が最も有名ですがVCP4の上位資格である
VCAPをご存じでしょうか？
VMwareの日本サイトでも紹介されておりますが、
<http://www.vmware.com/jp/services/education-certification.html>
VCAPはVCAP4-DCA: Datacenter Administrationと
VCAP4DCD: Datacenter Designと言う2つの試験から成り立っています。
どちらかの試験に合格することで、VCAP資格者として認定されます。

先日、VCAP4-DCD試験を受験しました。
VCAP4-DCD試験は大規模環境、マルチサイトにおける
VMware vSphereを使用した設計技術の知識が要求されます。

まず試験の概要を紹介致しますと、
問題数 : 113問
言語 : 英語のみ
試験時間 : 270分(240分 + 非英語圏のため調整30分)
合格点 : 500点中300点
問題形式 : 選択問題(単一、複数)
ドラッグ&ドロップ問題
設計ツールを使用した問題

となります。
(試験の概要につきましては、VMware社のサイトにVCAP4-DCD試験のBlue Print
として記載されています。)

試験が長時間のため(4時間30分)、合格するには設計知識も必要ですが、
根気も必要となります。
試験時間は進んでしましますが、途中で休憩(5分ほど)をとることを
お勧めします。

試験問題は、vSphere環境の基本的な知識を問う問題も出題されますが、
ほとんどはvSphere環境を設計する際に必要となる実践的な問題で
構成されています。

MSCSやActive Directory、ディザスタリカバリの設計に関する問題も
出題されておりました。実際にvSphere環境における設計の経験を
お持ちの方は、問題の内容をよりイメージしやすいかと思っておりますので
有利だと感じました。

弊社ではVMware社の認定コースである
VMware vSphere: Design Workshopコースを定期開催しており、
VCAP4-DCD試験の推奨コースに指定されています。

<http://www.school.ctc-g.co.jp/vmware/VM22.html>

試験問題の全部ではありませんが、約半分以上の問題はこのコースで紹介されている内容をしっかりおさえておけば、解答は可能です。

コースの受講はVCAPの認定条件には含まれておりませんが、独学ではカバーする範囲がとて広く、非効率な学習になりかねません。VCAPを取得して自身のスキルアップをお考えの方は、短期間で必要な技術力を身に付けることができる弊社コースの参加を是非ご検討下さい。

<http://www.school.ctc-g.co.jp/vmware/index.html>

『 Inst. Tech View ~ 第3回 “ Ruby 1.9 新機能 Fiber ” ~ 』

今回のInst. Tech Viewは、Webアプリケーション開発言語として注目を集めている「Ruby」がテーマです。他の開発言語ではあまり見られないRubyの新機能の1つである「Fiber」を紹介します。

FiberはRubyの1.9から導入されており、プログラマに対して複数のタスクを切り替えて実行（並行処理）するための構造を提供します。この構造はコルーチン、マイクロスレッド、軽量スレッドなどと呼ぶこともあります。Fiberを使用すれば状態を持つ処理を並行に扱うための記述を簡潔に行うことができます。以下の例はFiberを使用して2つのタスクを並行に実行している例です。

```
fiber_a = Fiber.new {
  1.upto(3) do |i|
    Fiber.yield(i)
  end
}
fiber_b = Fiber.new {
  3.downto(1) do |i|
    Fiber.yield(i)
  end
}
3.times do
  a = fiber_a.resume
  b = fiber_b.resume
  puts "a: #{a} b: #{b}"
end
# 実行結果
# a: 1 b: 3
# a: 2 b: 2
# a: 3 b: 1
```

上記の例では、Fiber.newの後ろにあるコードブロックで処理を記述し、それをFiberオブジェクトとして変数に代入します。Fiberオブジェクトはresumeメソッドにより呼び出され、Fiber.yieldで処理が中断します。次回以降のresumeメソッドの呼び出しで、中断した時の状態から処理を再開することができます。また実行結果から、処理の中断と再開で変数の値が保持されている事がわかります。

Fiberはノンプリエンティブマルチタスクや非同期処理、ゲームプログラミング、Generatorの実装などに使用すると有効です。

C T C教育サービスが提供するRuby関連コースは、プログラミングの初心者から経験者まで、今回のFiberのような最新機能を体系的に

習得できるカリキュラム構成になっています。

コースの詳細情報はこちら

「Ruby」関連コース

<http://www.school.ctc-g.co.jp/ruby/>

お問合せ・ご意見・ご感想は CTC教育サービス 窓口まで
シーティーシー・テクノロジー株式会社 エデュケーションサービス部
E-Mail: kyouiku@ctc-g.co.jp / TEL: 03-5712-8701

外部委託について

弊社はメールニュース配信業務をシーティーシー・ビジネスサービス株式会社（CTC 100%出資子会社）に委託しております。

本メールマガジン編集・配信責任者

CTCT エデュケーションサービス部 部長 篠原 義一

所在地：東京都世田谷区駒沢1-16-7 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jp

個人情報保護方針

CTCグループの個人情報保護方針につきましては下記URLをご参照ください。

http://www.ctc-g.co.jp/guide/security_policy.html?top=b_security

配信中止及びお問合せ対応について

- ・「CTC教育サービス News&Topics」の配信が不要な場合には、下記URLから配信停止のお手続きを行ってください。
<https://krs.bz/ctc-g/m/ctc-education>
- ・当社では、複数種類のメールマガジンやメールニュースを発行しております。大変お手数ではございますが、CTC教育サービス以外からのメール配信についての受信拒否および個人情報に関するご要求は、各メールに記載の個々の連絡先宛にそれぞれご連絡をお願いします。
- ・受信者ご本人様からの個人情報の開示・訂正・削除に関するご要求は、随時 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jpにてお受けいたします。